ラフェトに参加してきました！（地域おこし協力隊 秋保隊員レポート）

９月７日（日）に、年に一度行われる町・登地区のワイナリーやブドウ農園をめぐり、ワインを楽しむイベント「ラフェト・デ・ヴィニュロン・ア・ヨイチ（農園開放祭）」が開催されました！

９回目を迎える今年も、道内外から１，５００人のワイン愛好家が集結。普段はなかなか入ることのできないワイナリーやブドウ畑を歩いて、ヴィンヤードの美しい風景を眺めながら、余市のワインと食を満喫できる貴重な機会。参加者はブドウ栽培農家やワインの作り手の皆さんとの交流を楽しみ、余市ならではの特別な時間を過ごしていました。

▲ 尹偉捷隊員（写真左）

▲ 凌嘉俊（トニー）隊員

▲ 新保有加隊員

当日は、地域おこし協力隊（ワイン産業支援員）の３人も活躍。凌嘉俊（トニー）隊員と尹偉捷（いんいしょう）隊員はそれぞれ受入先のモンガク谷ワイナリーとドメーヌ・タカヒコのブースで、また新保有加（しんぼゆか）隊員は中井観光農園のブースでワインの提供支援を行い、多くの来場者をもてなしました。

秋はいよいよ収穫シーズン。今年のブドウから、どんなワインが出来上がるのか楽しみですね。

問合せ　政策推進課 政策調整係　☎２１－２１１７

白バイ隊員による指導と「ハンドサインでストップ運動」

８月２７日（水）、恵新自動車学園余市自動車学校にて、北海道警察本部交通機動隊の白バイ隊員２名が、余市郵便局の局員１２名を対象に交通安全訓練を実施しました。

この訓練は、「ハンドサインでストップ運動」と連動した取り組みとして実施されました。「ハンドサインでストップ運動」は、信号機の設置のない横断歩道において、歩行者とドライバーがハンドサインで意思疎通を図り、安全に横断歩道を渡ることを目的とした取り組みです。

当日は、余市警察署員の指導のもと、ほうりゅうじ保育園の園児たちも参加し、郵便局員とともに屋内で横断歩道の渡り方のシミュレーションしました。園児たちは、手を挙げて渡る方法や左右の安全確認などを学んだほか、白バイや郵便局のバイクへの乗車体験も行い、交通安全への関心を高める貴重な体験となりました。

問合せ　政策推進課 広報統計係　☎２１－２１１７

毛利衛さんが母校へ帰還！３３年ぶりの宇宙授業を開催

日本人として初めてスペースシャトルに搭乗した宇宙飛行士で余市宇宙記念館名誉館長を務める毛利衛（もうりまもる）さんが、８月２７日（水）に母校の黒川小学校で「宇宙授業２０２５」と題して授業を行いました。

１９９２年の初飛行の際、宇宙を飛行するスペースシャトルと黒川小学校を中継で結んで行われた世界初の宇宙授業以来、３３年ぶりの開催。今回、授業は４年生から６年生の児童とその保護者を対象に行われ、前半は、自身が宇宙へ行った際の打ち上げの映像や国際宇宙ステーションの様子など宇宙から見た地球の姿を紹介し、児童たちは普段聞くことができない宇宙の話を真剣な表情で聞いていました。

後半は、地球を取り巻く環境問題について意見を交えながら講演をしました。その中で毛利さんは「便利さや技術は進化しているが、同時に環境も変化している」と話し、「便利な暮らしと豊かな自然のどちらを優先していくべきか」と問題提起。児童たちからは「スマホやテレビがないと災害が起きてもわからない」など、様々な意見が発表され、中には毛利さんも驚くような鋭い意見も見られました。

▲ 子どもと意見交換する様子

授業後に毛利さんは「小学生との授業では非常にエネルギーをもらえる。大人とは違う素直な意見や発想にはいつもびっくりする」とし、「宇宙授業を行った３３年前には宇宙や地球という話題は日常とかけ離れた世界だったが、最近は技術の発達により身近に感じられるようになった。子ども達には色んなことを学んで地球を大切にしてほしい」と児童たちにメッセージを送りました。

問合せ　政策推進課 広報統計係　☎２１－２１１７